

新型コロナウイルス感染症対策としての マスク着用をめぐるアメリカ合衆国における議論 —— 個人の自由と他者への配慮 ——

Exploring the Discourse on Mask-Wearing to Protect against COVID-19 in the United States: Individual Freedom and Care for Others

花 木 亨

Toru HANAKI

Abstract

The spread of COVID-19 has forced Americans to change their way of life in many ways. One example of such changes is wearing a mask. While many Americans have willingly or reluctantly adopted this new practice, some of them have shown strong resistance to it. Whether to wear a mask or not has become the subject of heated debates. In this article, I explore the discourse on mask-wearing to protect against COVID-19 in the United States. In particular, I examine the messages from the government and politicians about wearing a mask, discussions surrounding the governmental efforts to mandate mask-wearing, public opinions on the issue, arguments of the anti-maskers, and the meanings that Americans attach to the act of wearing a mask.

1. はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大は、世界中の人の暮らしに大きな影響を与えた。本稿執筆の時点において、最大の感染者数と死者数を記録しているアメリカ合衆国についても、それは当てはまる。このウイルスは、医療、経済、教育、文化、政治など、アメリカ社会の諸相に大きな変化をもたらした。感染が早期に収束する見通しが立たない中、アメリカ人たちは新型コロナウイルスとともに生きるために、いくつかの馴染みのない生活様式を取り入れることを強いられた。その一つがマスクの着用である。

風邪やインフルエンザなどの流行期にマスクを着ける習慣のあった日本を含むアジア諸国と比較すると、アメリカを含む欧米諸国では感染症対策のためにマスクを着けるという発想は馴染みのな

いものだったとされる (Friedman, 2020, April 2)。それでも、新型コロナウイルス感染症対策にマスクが有効であるとの認識が広まるにつれて、多くのアメリカ人たちが日常的にマスクを着けるようになった。州政府や地方政府が外出時のマスク着用を義務づけたり、商業施設や病院が敷地内でのマスク着用を義務づけたりする動きも見られた (Mitropoulos, 2020, July 18)。自分と周囲の人たちの健康を守る手段の一つとして、多くのアメリカ人たちがマスクの着用という新しい習慣を取り入れていった。

その一方で、一部のアメリカ人たちはマスクの着用に対して激しい拒否反応を示した。店内でのマスク着用を義務づける商業施設にマスクを着けずに入店し、警備員から注意されると逆上する人びとの姿が各地で見られた。スーパーマーケットの商品棚に陳列されているマスクに罵声を浴びせ、それらを次々と床に叩き落とす客もいた (Abad-Santos, 2020, July 9)。マスク着用を義務づける州政府や地方政府の命令に反対する運動も活発化した (Stewart, 2020, August 7)。一体なぜ、彼らはマスクの着用を拒むのだろうか。

マスク着用に抵抗する人たちの中には、新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの効果を疑問視する人たちがいる。その一方で、感染症対策としてのマスクの効果を理解しつつも、あえてマスクを着けないという選択をする人たちもいる。結局、マスク着用に対する人たちは、マスクを着用すること自体に反対しているというよりも、マスク着用を義務づけられることに反対しているという側面が大きいのかもしれない。

アメリカの州の中には、公的な場所におけるマスクの着用を全州民に義務づけている州もあれば、義務づけていない州もある (Mitropoulos, 2020, July 18)。一般的な傾向として、民主党の州知事たちはマスク着用の義務づけに積極的であるのに対して、共和党の州知事たちはマスク着用の義務づけに慎重であるとされる。そして、この傾向は一般市民のマスクに対する態度にも共通している。民主党寄りの考えをする人たちが進んでマスクを着用しようとするのに対して、共和党寄りの考え方をする人たちはマスクの着用を強いられることに抵抗しようとする傾向が見られる (Igielnik, 2020, June 23)。マスク着用を義務づけるかどうかということは、アメリカにおいて政治的な論点の一つとなっている (Stanley-Becker, 2020, May 13)。

以上のような状況を踏まえ、本稿においては、新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用をめぐるアメリカ合衆国における議論を整理する。特にマスク着用をめぐる議論が活発になった2020年2月頃から7月頃までの議論に焦点を絞る。新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用について、政府などの公的機関、大統領トランプ、大統領候補者バイデンは、それぞれどのようなメッセージを発しただろうか。マスク着用の義務づけをめぐる、州政府や地方政府はどのような動きを見せただろうか。マスク着用について、世論はどのように反応しただろうか。マスク着用に対する人たちは、どのような理由でそうしたのでだろうか。そして、マスクを着けるといふ行為は、アメリカ人たちにとって何を意味するのだろうか。本稿においては、これらの問いに対する一つの応答を試みる。以下では、議論の推移を記述しながら、少しずつ筆者なりの解釈を深めていく。

2. マスク着用についての公的機関からのメッセージ

この節では、新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用について、政府などの公的機関

がどのようなメッセージを発したのかを確認する。大きな流れとして、マスク着用をめぐる公的機関からのメッセージは、一般市民によるマスクの着用を勧めない立場から勧める立場へと移行していったと言える。

感染拡大の初期において、アメリカ政府などの公的機関は一般市民がマスクを着用することを勧めなかった。2020年2月29日、アメリカ公衆衛生局長官ジェローム・アダムズは、ツイッターにおいて、マスクには一般市民が新型コロナウイルスに感染するのを防ぐ効果はないと述べ、人びとにマスクを買わないように呼びかけた。その背景には、医療従事者が患者の治療に使うマスクが不足することへの懸念があったとされる(Asmelash, 2020, March 2)。アメリカ疾病管理予防センター(Centers for Disease Control and Prevention: CDC)と世界保健機関(World Health Organization: WHO)も、2020年3月の時点において、マスクは病気の人たちとその治療にあたる人たちが使用するべきであり、健康な一般市民はマスクの使用を控えるべきだと訴えていた(Yan, 2020, June 29)。

その後、マスクの着用が新型コロナウイルスの感染防止に役立つ可能性が明らかになったことを受けて、アメリカ公衆衛生局とCDCはそれまでの方針を転換し、2020年4月3日、健康な一般市民に対してマスクの着用を勧めると発表した(Dwyer & Aubrey, 2020, April 3)。WHOも方針を転換し、2020年6月5日、対人距離を確保することが難しい状況においては、健康な一般市民であってもマスクを着用することを勧めると発表した(Howard, 2020, June 5)。

ここで確認しておきたいことは、マスクの着用が自分の身を守るためだけでなく、自分の周りの人たちの身を守るためにも推奨されたということである(Masks Protect You & Me, 2021, January 7)。新型コロナウイルスについては、無症状の感染者が自覚のないまま、周囲の人たちを感染させる事例が報告されている。自分が感染しているという自覚があるかどうかにかかわらず、できるだけ多くの人たちがマスクを着ければ、感染者が発した飛沫が非感染者の身体に取り込まれる確率を下げることができると想定される。

この点に関して、アメリカ国立アレルギー感染症研究所(National Institute of Allergy and Infectious Diseases: NIAID)所長のアンソニー・ファウチは、2020年5月27日、CNNとのインタビューにおいて、以下のように述べている。

I wear it for the reason that I believe it is effective. It's not 100 percent effective. I mean, it's sort of respect for another person, and have that other person respect you. You wear a mask, they wear a mask, you protect each other.... I want to protect myself and protect others, and also because I want to make it be a symbol for people to see that that's the kind of thing you should be doing. (Stracqualursi, 2020, May 27)

マスクを着けることは、「他者を尊重すること(respect for another person)」だとファウチは言う。自分がマスクを着け、周りの人たちもマスクを着けることで、お互いの身を守り合う。この文脈において、マスクを着けるという行為は、他者への配慮、あるいは自分が所属する共同体に対する一つの責任の果たし方を象徴していると考えられるだろう。

3. マスク着用についてのトランプとバイデンからのメッセージ

前節において、アメリカ公衆衛生局や CDC などの公的機関は、感染拡大の最初の一時期を除いて、マスクの着用を推奨してきたと述べた。これらはアメリカ合衆国の連邦政府機関だが、これらの組織が発したメッセージと大統領ドナルド・トランプが発したメッセージが常に一致していたわけではない。たとえば、CDC がそれまでの方針を転換し、健康な一般市民に対してマスクの着用を勧めると発表した 2020 年 4 月 3 日、トランプはこの CDC による勧告に従うかどうかは任意であるとした上で、記者団に対して以下のように述べた。

Well, I just don't want to wear one myself. It's a recommendation; they recommend it. I'm feeling good. I just don't want to be doing — I don't know, somehow sitting in the Oval Office behind that beautiful Resolute Desk — the great Resolute Desk — I think wearing a face mask as I greet presidents, prime ministers, dictators, kings, queens, I don't know. Somehow, I don't see it for myself. I just — I just don't. Maybe I'll change my mind, but this will pass and hopefully it'll pass very quickly. (Remarks by President Trump, 2020, April 3)

トランプは CDC による勧告に反対しない一方で、自分自身はその勧告に従うつもりはないと述べている。その理由は必ずしも明らかではないが、マスクを着けながら大統領執務室の机で仕事をしたり、各国首脳と対談したりする自分の姿を想像できないという趣旨の発言をしていることから、マスクを着用することがアメリカ合衆国大統領にふさわしくないと考えていた可能性がある。その一方で、最後のほうでは「そのうち考えが変わるかもしれない (Maybe I'll change my mind)」と述べ、将来マスクを着用する可能性について含みを残している。

その後、トランプは少なくともメディアの前において、マスクの着用を避け続けた。2020 年 5 月 21 日、ミシガン州にあるフォードの工場を視察した際には、大統領の紋章が付いたマスクを着けていたとされるが、報道陣のカメラの前ではそれを外した。その理由として、トランプは同行者と自分自身が新型コロナウイルスの検査を受けていたこと、また「マスクを着けている姿を見せて報道陣を喜ばせたくなかった (I didn't want to give the press the pleasure of seeing it)」ことなどを挙げた (Carlisle, 2020, May 26)。

このトランプの行動をミシガン州司法長官ダナ・ネッセルは激しく非難した。ミシガン州では工場内でのマスクの着用が義務づけられていたことから、ネッセルは 20 日にトランプ宛てに公開書簡を送り、工場を視察する際にはマスクを着用するようにトランプに求めていた。それにもかかわらず、トランプはマスクを着けずに報道陣の前に現れた。これを受けて、ネッセルはトランプを「規則に従うことを嫌がる駄々っ子 (a petulant child who refuses to follow the rules)」と呼び、その行為が一般市民に間違ったメッセージを送ることについて懸念を表明した (Moreno, 2020, May 22)。これに対してトランプがツイッター上で反論し、それに対してさらにネッセルが反論するというように、激しい言葉の応酬が続いた。司法長官ネッセルもミシガン州知事グレチェン・ウィットマーも民主党の所属である。マスクの着用を義務づけようとする民主党とその判断を市民に委ねようとする共和党との対立の構図が、ここにも確認できる。

2020 年 5 月 25 日、民主党大統領候補予定者ジョー・バイデンは戦没将兵追悼記念日 (Memorial

Day) の式典にサングラスとマスクを着けて現れた。自主隔離を続けるバイデンが公の場に姿を現すのは2か月以上ぶりのことだった。FOX Newsのブリット・ヒュームは、ツイッター上にバイデンの写真を載せ、「トランプが公の場でマスクを着けたがらない理由はこれかもしれない (This might help explain why Trump doesn't like to wear a mask in public)」という文章を添えた。このツイートが黒いサングラスとマスクに覆われたバイデンの顔を揶揄していることは明らかだった。トランプはこのツイートを自分のアカウントでリツイートした (Samuels, 2020, May 26)。

CNNとのインタビューにおいて、この件についての意見を求められたバイデンは、トランプのことを「まったくの愚か者 (an absolute fool)」と呼び、「大統領は人びとを導いていくべきで、愚かなことをしたり、偽りの男らしさを誇ったりするべきではない (Presidents are supposed to lead, not engage in folly and be falsely masculine)」と述べたという (Bradner, 2020, May 27)。その一方で、ロイターの記者ジェフ・メイソンにリツイートの意図について尋ねられたトランプは、晴れた日の屋外に妻と二人でいるのにもかかわらず、マスクを着けることを選んだバイデンの姿を「とても奇妙だ (very unusual)」と思ったと述べるとともに、メイソンにマスクを外すように求めた (Samuels, 2020, May 26)。メイソンの声が聞きとりにくいというのがその理由だったが、メイソンはマスクを外すことはせず、より大きな声で話すようにするとトランプに告げた。これに対してトランプは、「ああ、わかった、政治的に正しい振る舞いをしたいんだな (Oh, Okay, because you want to be politically correct)」と答えたという (Samuels, 2020, May 26)。

このやりとりは、トランプとバイデンのお互いに対する見方を表している。バイデンの「偽りの男らしさ」という言葉からは、トランプが科学的知見を軽視し、根拠なく強がることで、アメリカ人たちを危険にさらしているとバイデンが捉えていたことがうかがえる。その一方で、トランプの「政治的に正しい振る舞い」という言葉からは、バイデンやその仲間たちが知識人を気取り、正義の味方を演じることで、自分を悪者に仕立て上げようとしているとトランプが考えていたことが読み取れる。ポリティコの記事は、マスク着用をめぐる共和党支持者と民主党支持者の間の対立を「向こう見ずな共和党支持者 (reckless Republicans)」と「独り善がりのリベラル (smug liberals)」との間の対立と呼んだが、これはトランプとバイデンとの間のやりとりにも当てはまるだろう (Lizza & Lippman, 2020, May 1)。

2020年6月末から7月初めにかけて、共和党関係者のマスクに対する姿勢に変化が見られた。副大統領マイク・ペンスは、CBSの番組*Face the Nation*において、対人距離を確保することが難しい場合や地元当局が必要と判断した場合にマスクを着用することを一般市民に促した (Transcript, 2020, June 28)。下院議員リズ・チェイニーは、父親であり、元副大統領であるディック・チェイニーがマスクをしている写真をツイッターに投稿し、「ディック・チェイニーがマスクをしろと言っている (Dick Cheney says WEAR A MASK)」と書き添えた (Bosman, 2020, July 1)。上院議員ラマー・アレクザンダーは、マスクを着けるという命を守るための小さな行為が親トランプ派と反トランプ派の間の政治的論争を引き起こしていると嘆き、マスクを着けた姿を人びとに見せるようにトランプに促した (Bosman, 2020, July 1)。

こうした動きの中、トランプのマスクに対する姿勢にも変化が見え始めた。2020年7月11日、ウォルター・リード米軍医療センター (Walter Reed National Military Medical Center) に負傷した兵士たちを見舞った際、トランプは初めてマスクを着けて公衆の前に現れた。大統領の紋章が付いたマスクを着け、制服姿の男たちとともに医療センターの廊下を歩くトランプの動画は、広くメディアで報道され、多くのアメリカ人たちがその姿を目にした (Reston, 2020, July 12)。その数

日後、2020年7月14日のCBSとのインタビューにおいて、トランプは必要であれば、自分はアメリカ人たちにマスクをするように勧めるし、指針に従うように言うだろうと述べた(Choi, 2020, July 14)。

2020年7月20日、トランプはそれまでもっとも直接的な形でマスクの着用をアメリカ人たちに促した。以下の文章とともに、マスクを着けた自分の写真をツイッターに投稿したのだ。

We are United in our effort to defeat the Invisible China Virus, and many people say that it is Patriotic to wear a face mask when you can't socially distance. There is nobody more Patriotic than me, your favorite President! (Breuninger, 2020, July 20)

ここでトランプは、対人距離を確保できない状況でマスクを着けることを「愛国的 (patriotic)」な行為だとした上で、自分が愛国的な大統領であると強調すると同時に、自分の支持者たちにマスクを着けることを促している。また、新型コロナウイルスを「目に見えない中国ウイルス (Invisible China Virus)」と呼ぶことで、支持者たちの排外感情を刺激し、新型コロナウイルスをめぐる問題の責任を中国に転嫁しようとしている。

トランプがアメリカ人たちにマスクの着用を促すようになった背景には、新型コロナウイルスの感染拡大が収まる気配を見せないアメリカの状況があった。専門家や民主党関係者だけでなく、共和党関係者からも、大統領が模範を示し、マスクの着用を促すべきだという声が上がっていた。そこには、マスクを着けることで感染の拡大を食い止めたいという思いに加えて、感染対策に万全を期すことで経済活動や社会活動の再開に向けての理解を得たいという思いが反映されていた。経済を早期に立て直すことは、11月の大統領選挙で再選を目指していたトランプにとっても最優先課題の一つだった。

こうして、一般のアメリカ人たちに対してマスクの着用を推奨する姿勢を見せ始めたトランプだったが、政府がマスク着用を義務づけることについては消極的な姿勢を崩さなかった。これに対して、民主党大統領候補者となったバイデンは全国的なマスク着用の義務づけを訴えた。両者の立場の違いは大統領選挙における争点の一つとなった。

4. 州政府や地方政府によるマスク着用義務づけをめぐる動き

2020年7月中旬の時点において、28の州が公的な場所におけるマスクの着用やそれに相当する行為を州民に義務づけていた (Mitropoulos, 2020, July 18)。これに従わない市民や事業者に対しては、罰金が科されたり、業務停止命令が出されたりすることが多かったが、それらを実行に移すかどうかについては対応が分かれた。たとえば、警察官や保安官の中には、マスク着用義務づけが個人の自由を保障するアメリカ合衆国憲法に違反するとの懸念から、マスク未着用者に対する取り締まりを拒む人もいた。このような動きに対して、知事たちは警察署への資金拠出を停止するなどして、マスク着用義務づけに実効性を持たせようとした (Mann, 2020, July 8)。州民に対してマスク着用を義務づけようとする州知事たちと、マスクを着用しない市民の自由を尊重しようとする警察官や保安官との間に、温度差があったことがわかる。

一般的な傾向として、民主党の知事たちは州政府によるマスク着用義務づけを支持し、共和党の

知事たちは支持しないことが多かったが、例外もあった。たとえば、共和党のメリーランド州知事とマサチューセッツ州知事は、比較的早い時期からマスクの着用を広く州民に義務づけていた。また、同じく共和党のテキサス州知事やアリゾナ州知事は、当初それぞれの州内全域においてマスク着用の義務づけに反対していたが、感染拡大が収まらないことを受けて、州内の地方政府がマスク着用を義務づけることを容認した (Hellmann, 2020, June 18)。

マスク着用の義務づけをめぐる、州政府と地方政府が衝突する事例も見られた。その一つの象徴が、ジョージア州知事とアトランタ市長との間の対立である。ジョージア州知事ブライアン・ケンプは、2020年7月15日、州民に対するマスク着用義務づけに関して、州内の地方政府が州政府よりも厳しい措置を講じることを禁じる行政命令を出した。この行政命令は、公的な場所でマスクを着けることを州内の人びとに強く促す一方で、これを義務づけることはしなかった。アトランタ市長ケイシャ・ランス・ボトムズはアトランタ市内においてマスクの着用を義務づけており、ケンプはこの行為が自分の発した行政命令に違反するとして、2020年7月16日にボトムズを提訴した (Stracqualursi & LeBlanc, 2020, July 16)。この提訴について、ケンプはツイッター上で以下のように説明した。

This lawsuit is on behalf of the Atlanta business owners and their hardworking employees who are struggling to survive during these difficult times. These men and women are doing their very best to put food on the table for their families while local elected officials shutter businesses and undermine economic growth. (Romo, 2020, July 16)

ケンプにとって、ボトムズの措置は行き過ぎており、経済的に困窮している州民をさらに窮地に陥れるものと映ったようだ。これに対して、ボトムズは同じくツイッター上で以下のように応じた。

3104 Georgians have died and I and my family are amongst the 106k who have tested positive for COVID-19. Meanwhile, I have been sued by @GovKemp for a mask mandate. A better use of tax payer money would be to expand testing and contact tracing. (Romo, 2020, July 16)

このように、ボトムズはマスクの着用を市民に促すことこそが彼らを救うことにつながると主張し、ケンプによる提訴の動きを批判した。ブライアン・ケンプは共和党の州知事で白人男性であり、ケイシャ・ランス・ボトムズは民主党の市長で黒人女性である。このケンプとボトムズとの間の対立は、党派、性別、人種などの要素と絡まり合いながら深まるアメリカ社会の分断を反映している。

5. 世論

一般のアメリカ人たちは、新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用について、どのように考えていたのだろうか。いくつかの世論調査の結果を参照しながら、確認していきたい。全体的に見ると、マスク着用についてのアメリカ人たちの考えは、支持政党、人種、性別、年齢、居住地域などによって異なる傾向が確認された。その一方で、新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの有効性が広く認識されていくにつれて、支持政党などの違いを超えて、マスク着用に対す

る支持が高まっていく傾向が見られた。

ワシントンポストが公表した調査によると、2020年4月の時点で、民主党支持者の73パーセントが公的な場所においてマスクなどを着用したことがあると答えたのに対して、同じように答えた共和党支持者は59パーセントだった。また、アジア系アメリカ人の82パーセント、アフリカ系アメリカ人の74パーセント、ラテン系アメリカ人の71パーセントが公的な場所においてマスクなどを着用したことがあると答えたのに対して、同じように答えた白人は66パーセントだった。さらに、身近に新型コロナウイルスに感染した人がいる人たちのほうが、より積極的にマスクを着用する傾向があることも確認された (Sanchez & Vargas, 2020, May 15)。

ピュー・リサーチセンターが2020年6月に実施した調査においても、似たような傾向が確認された。この調査によると、民主党寄りの考えをする人たちの63パーセントが公的な場所では常にマスクを着けるべきだと答え、23パーセントがほとんどの場合にそうするべきだと答えたという (合計86パーセント)。これに対して、共和党寄りの考えをする人たちの29パーセントが公的な場所では常にマスクを着けるべきだと答え、23パーセントがほとんどの場合にそうするべきだと答えていた (合計52パーセント)。これに加えて、男性よりも女性、白人よりも黒人やヒスパニック、若者よりも高齢者、田舎に住む人よりも都市部に住む人のほうが、マスクの着用を支持する傾向が確認された (Republicans, Democrats move even further apart, 2020, June 25)。

ポリティコが公表した2020年7月時点の調査では、支持政党にかかわらず、多くのアメリカ人たちが州政府によるマスク着用義務づけを支持していることが確認された。登録済み有権者を対象としたこの調査によると、回答者の72パーセントが罰則を伴う州政府によるマスク着用義務づけを強く支持しているか、ある程度支持していると答えたという。支持政党別の内訳を見ると、民主党支持者の86パーセント、無党派層の68パーセント、共和党支持者の58パーセントが、州政府によるマスク着用義務づけを強く支持するか、ある程度支持していると回答していた (Cohen, 2020, July 22)。

質問内容が同じでないため単純に比較することはできないが、2020年7月の時点で州政府によるマスク着用義務づけを支持する人たちがかなりの数に上ったことは注目に値する。政府による規制を嫌う傾向のある共和党支持者でさえ、その58パーセントが州政府によるマスク着用義務づけを支持していた。新型コロナウイルス感染症対策にマスクが有効であるとの認識が広まるにつれて、支持政党にかかわらず、多くのアメリカ人たちがマスクの着用を支持するようになったと捉えることができるだろう。共和党の知事を含めて全米の州知事の半数以上が州民にマスク着用を義務づけるようになっていたこと、またCDCなどの公的機関やアメリカ政府関係者が一致してマスク着用を推奨するようになっていたことも、アメリカ人たちの意識に影響を与えたと考えられる。

6. マスク反対派の主張

新型コロナウイルスの感染を防ぐためにマスクが有効だという認識が広まるにつれて、多くのアメリカ人たちが実際にマスクを着けたり、マスク着用を促す政策を支持したりするようになった。その一方で、マスクの着用やその義務づけに強く反対するアメリカ人たちもいた。彼らの言動の一部は記録され、テレビやインターネットをとおして広まった。以下に、そのいくつかの例を確認する。

2020年6月26日、カリフォルニア州ノースハリウッドのスーパーマーケット、トレイダー・ジョー

ズにおいて、マスクを着けるように言われた女性客が逆上し、店員や周囲の人たちに向かって以下のように叫んだ。

Democratic pigs. All of you. That man harassed me for not wearing a mask. I have a breathing problem. My doctor would not let me wear a mask. So anyone harassing me to wear a mask, you guys are violating federal law. You get that? Get that on camera. (Anti-Maskers throw tantrums, 2020, June 30)

彼女はマスクの着用を拒む理由として健康上の問題を挙げると同時に、マスク着用を促す人たちを「民主党の豚 (Democratic pigs)」と呼んで激しく攻撃している。また、彼女はマスクの着用を強いることは連邦法に違反する行為だとも述べている。

その少し前の2020年6月23日、フロリダ州パームビーチ郡の行政委員会において、マスク着用を義務づける法案の採決が行われた。この法案は最終的に可決されたが、そこに至る過程で市民たちに意見を述べる機会が与えられた。マスク着用に対抗する人びとは、この機会に様々な意見を述べた。たとえば、ある女性は以下のように発言した。

I'm very sad to see the authorities stomping on our constitutional rights and trying to decide something when they have no scientific proof that masks will protect the person. And they want to throw God's wonderful breathing system out the door. You're all turning your backs on it. Can you prove that it's good for people to breathe carbon dioxide over and over and over again? (Smalls II, 2020, June 26)

この女性は自分がマスク着用に対抗する理由として、アメリカ合衆国憲法が保障する選択の自由を当局が踏みにじっていることや、マスク着用の効果が科学的に証明されていないことなどを挙げている。また、神が人間に与えた呼吸機能を奪うことはできないとして、神の名のもとにマスク着用の義務づけを疑問視している。さらに、マスクを着けると二酸化炭素を何度も吸い込むことになるため、身体に悪いとも主張している。

また、別の女性は強くはっきりとした口調で以下のような主張を展開した。

You cannot mandate, you literally cannot mandate somebody to wear a mask knowing that that mask is killing people. It literally is killing people.... We the people are waking up. And we know what citizen's arrest is because citizen's arrests are already happening, okay? And every single one of you that are obeying the devil's laws are going to be arrested. And you, doctor, are going to be arrested for crimes against humanity. Every single one of you have a smirk behind that little mask, but every single one of you are going to get punished by God. (Smalls II, 2020, June 26)

この女性は、マスクが人びとの命を奪っていると述べた上で、マスク着用を推進することは悪魔に従うことであると主張している。そして、マスク着用を義務づける人たちが神によって罰せられるだろうと述べている。彼女は以下のように続ける。

You cannot, you cannot escape God. You cannot escape God. I'm gonna say that again, you cannot escape God not even with the mask or six feet. Okay, six feet, like I said before, is military protocol. You're trying to get the people, to train them, so when the cameras, the 5G comes out, what? They're gonna scan everybody? We've got to get scanned, we've got to get temperatured? The kids have to go to school with masks? Are you insane? Are you crazy? I think all of you should be in a psych ward right the heck now because none of you, none of you know what the hell you are all taking about. This is insane. And then you want to open this meeting with a prayer to God. Are you praying to the devil? Because God is not listening to that prayer, because all of you are practicing the devil's laws. (Smalls II, 2020, June 26)

ここで彼女は、マスクの着用や対人距離の確保を強いることは人びとを軍の規律に従わせるようなものだと述べた後、やや唐突に5G（第5世代移動通信システム）の話を持ち出す。軍隊においてそうであるように、命令に忠実に従うように訓練された市民たちは、新しい情報通信技術のもと、政府による監視や管理を無批判に受け入れるようになるだろうと彼女は主張しているようである。さらに、ある男性は激しい身振り手振りを交えながら、大声で以下のように主張した。

You did not listen to we the people. I would die for the country. I would die for the Constitution. And you know what, you disgrace me. You know why, you did not listen to we the people. You made your decision. (Smalls II, 2020, June 26)

この男性は、アメリカ合衆国とその憲法に対する強い愛着を表明した上で、ここでの審議と採決が彼のアメリカ合衆国への忠誠を汚すものであると主張している。マスク反対派の意見に反して、当局はマスク着用を義務づけようとしており、それに対してこの男性が強い憤りを覚えていることがうかがえる。

上で紹介した人たちは、以下のような理由を挙げて、政府によるマスク着用の義務づけに反対していた。——マスクが身を守るのに有効かどうかわからない。マスクを着けると、自分が吐き出した二酸化炭素を吸い込むことになる。マスク着用を義務づけることは、アメリカ合衆国憲法が保障する自由の侵害である。マスク着用の義務づけは、政府の権限の不当な拡大である。マスク着用の義務づけは、大きな政府を志向する民主党の策略である。マスク着用の義務づけは神の意思に反する。

これらの主張から、彼らが民主党的なもの、あるいはリベラルなものに対して、警戒感や嫌悪感を抱いていることが読み取れる。彼らの目には、マスク着用を義務づける動きは、リベラル派が新型コロナウイルスを契機に危機感を煽り、政府による監視と管理を推し進めようとしているように映るようだ。マスク反対派は、主流メディアをリベラル派の一部と見なし、これらを信用しない傾向が強い。その代わりに彼らの多くが頼るのは、自分で検索したインターネット上の情報である。それらの情報には、リベラル派に対する陰謀論が含まれることが多い。上で紹介したマスク反対派の主張にも、そのような陰謀論の影響が見られる (Stewart, 2020, August 7; Uscinski & Parent, 2014)。

マスクに反対する人たちのすべてが、上に書いたような極端かつイデオロギー的な理由でそうしているわけではない。何となくマスクを着けたくない。マスクには一定の感染防止効果があるのか

もしれないが、不快な思いをしてまでマスクを着ける必要性を感じない。マスクを着けずに新型コロナウイルスに感染したとしても自分は構わないから、好きにさせてほしい。——このような理由で、マスク着用を拒む人たちもいる。人口密度が低い地域にある広々とした公園で、家族と一緒にピクニックをしているときに、マスクを着ける必要性が本当にあるのかわからないというような意見もある。また、インフルエンザや失業など、生活をしていく上で他にも様ざまなリスクがある中で、新型コロナウイルスのリスクのみを過剰に見積もることを疑問視する声もある。ある意味において、彼らは自分が直面するリスクを自分で評価し、そのリスクに対してどのように対処するかを自分で決める自由を求めていると言えるかもしれない。そのような姿勢は、小さな政府を求める姿勢やアメリカ合衆国憲法を尊重する姿勢と親和性が高いように思われる。

多くのアメリカ人たちは、マスク反対派の主張には科学的根拠に欠けるところや理に合わないところがあると考えている (Stewart, 2020, August 7)。世論調査の結果も、マスク着用を支持するアメリカ人たちのほうが多いことを示している。主流メディアは、マスク反対派のことを極端な意見を持つ少数派として描く傾向が強い。それらのメディアは、マスク反対派の自分勝手な振る舞いが他のアメリカ人たちを危険にさらしていると示唆する。マスク反対派による言動を風刺するコメディ番組も多い。ソーシャルメディアにも似たような表現があふれている (Smalls II, 2020, June 26)。それにもかかわらず、あるいはそうだからこそ、マスク着用に対する意見を述べ続ける人たちがいる。これらの数は少ないけれども声の大きい人たちが、マスク着用をめぐる議論に無視できない影響を与えている。

7. マスクを着けることの意味

これまでに確認したように、新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用について、アメリカには多様な意見が存在する。マスクを進んで着用し、他の人たちにもそうすることを勧める人たちがいる一方で、マスク着用に断固として反対する人たちがいる。彼らはマスクを着けるという行為に異なる意味を見出しているように思われる。アメリカ人たちにとって、マスクを着けるという行為は何を意味するのだろうか。これまでの議論を踏まえつつ、考えてみる。

まず、多くのアメリカ人たちは、新型コロナウイルスの感染を防ぐためにマスクを着けることを社会的に正しい行為と捉えていると言えるだろう。CDCなどの公的機関や感染症の専門家たちは、マスクの着用が新型コロナウイルスの感染を防ぐ効果があると指摘し、アメリカ人たちにマスクを着用するように勧めた。多くのアメリカ人たちは、こうした情報を正しいものと受け止め、その勧めに従った。新型コロナウイルスは、人を苦しめたり、人の命を奪ったりする。マスクを着用することでその苦しみや喪失を減らすことができるのであれば、そうすべきだという考えが、多くのアメリカ人たちに共有されているように思われる。

マスクを着けることが正しい行為であるという考えには、自分の苦しみや命だけでなく、他者の苦しみや命を尊重しようとする姿勢が含まれている。公的機関や専門家たちがマスクの着用を勧めるのは、自分を感染から守るためだけでなく、周囲の人たちを感染から守るためでもある。もちろん、周囲の人たちを感染から守ることができれば、社会全体において感染が抑えられ、その結果として、自分の身が守られるという側面はある。その一方で、新型コロナウイルスに感染したり、感染後に重症化したりするリスクが比較的低い人たちであっても、マスクを着けることで、高いリス

クを抱える人たちを守ることができる。アメリカ人たちの多くは、このことを理解した上で、マスクを着けている。したがって、マスクを着けるという行為は、他者への配慮を表していると言えるだろう。

新型コロナウイルスをめぐる状況やマスク着用の効果について、専門家たちは科学的に検証された最新の情報を提供し、主流メディアはそれを伝える。したがって、専門家たちの見解を受け入れ、マスクを着用するという行為は、科学と主流メディアを信頼するという意味するだろう。主流メディアというのは、やや曖昧な表現ではあるが、ここではニューヨークタイムズ、ワシントンポスト、ABC、CNN、NPRなど、一定の伝統と実績のあるメディアのことを指す。多くのアメリカ人たちが主流メディアに対してある程度の信頼を寄せている一方で、一部のアメリカ人たちはこれらに対して不信感を抱いている（前嶋，山脇，津山，2019）。科学についても同様で、物事の真偽を見極めたり、何を為すべきかを判断したりするときに、科学的思考をあまり重視しないアメリカ人たちがいる（Hofstadter, 1963; Jacoby, 2018）。このような人たちは、新型コロナウイルスをめぐる専門家たちの見解や主流メディアによる報道に対しても懐疑的で、マスクの着用を拒む傾向を持つ。したがって、マスクを着けるという行為は、科学と主流メディアに対するアメリカ人たちの信頼を表していると言えるだろう。

マスクを着けることを弱さの表れと捉えるアメリカ人たちもいる。新型コロナウイルスは、目に見えない。それがどのような性質を持つのか、どのように広がるのか、どれぐらい危険なのかなどについて、本稿執筆の時点においても、わからないことは多い。一部のアメリカ人たちは、そのような不確かさで、目に見えないものを怖がるのは見苦しいことだと考えている。そして、そのような考え方をする人たちは、女性よりも男性に多いようである（Abad-Santos, 2020, August 10）。アメリカに住む約2500人を対象にした研究によると、男性たちはマスクを着けることを「恥ずべきこと（shameful）」、「格好悪いこと（not cool）」、「弱さの表れ（a sign of weakness）」と捉える傾向が強かった（Capraro & Barcelo, 2020）。また、彼らは新型コロナウイルスが自分たちに深刻な影響を与えることはないだろうと考える傾向も強かった。マスクを着けることを弱さの表れと捉えるこのような傾向は、トランプをはじめとする政治家や著名人たちの言動にも確認できる。

マスクを着けること、特に強制されてそうすることは、一部のアメリカ人たちにとって、アメリカ合衆国憲法が保障する個人の自由を放棄することを意味するようである。上で確認したように、一部のアメリカ人たちは、マスク着用の義務づけに対して非常に激しい拒否反応を示した。マスク着用を義務づけるスーパーマーケットの店員と激しく口論したり、その店の商品を床に叩き落としたりする人たちの姿が各地で確認された。マスク着用を義務づける州政府や地方政府に対して、集団で抗議する人たちの姿も広く見られた。彼らの多くは、アメリカ合衆国憲法を拠り所として、政府や企業によるマスク着用の義務づけに反対した。彼らにとって、アメリカは自由の国である。そして、その自由はアメリカ合衆国憲法によって保障されている。自由を重んじるこれらの人たちは、マスクに感染防止効果があるかどうかということにかかわらず、マスクを着けるかどうかは本人が決めるべきだと考えている。これらのアメリカ人たちにとって、誰かの指示に従ってマスクを着けるということは、アメリカ合衆国憲法の精神やアメリカ的な生き方を手放すことを意味するようである。

新型コロナウイルスをめぐる状況やマスクによる感染防止効果をどのように理解するかということについては、民主党寄りの人たちと共和党寄りの人たちの間で意見が分かれる傾向が見られた。このような状況において、マスクを着けるという行為は、民主党的な考え方を支持し、共和党

的な考え方を支持しないことを意味すると言えるかもしれない。民主党寄りの考え方をする人たちは、新型コロナウイルスの感染拡大を深刻な脅威と捉えると同時に、マスクの着用をこれに対する有効な対抗手段と見なす傾向が強かった。その一方で、共和党寄りの考え方をする人たちは、新型コロナウイルス感染症に対する民主党支持者や主流メディアの反応を過剰だと捉えると同時に、マスクを着けるかどうかの判断は状況に応じて個人が行うものだと考える傾向が強かった (Thomson-DeVeaux, 2020, July 23)。したがって、一般的には、マスクを着けるという行為は民主党的な考え方に対する支持を表していると考えられるだろう。ただし、新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの効果が広く認識されていくにつれて、マスクの着用が党派を超えて支持されるようになっていったという事実もある。その意味では、マスクの着用を民主党的な価値観に安易に結びつけることには慎重になったほうがいいかもしれない。

マスクを着けるという行為は、アメリカ人たちにとって多様な意味を持っている。多くのアメリカ人たちにとって、それは社会的に正しい行為、他者への配慮、科学と主流メディアに対する信頼を意味する。その一方で、マスクを着けることを弱さの表れと捉えるアメリカ人たちもいる。また、マスクを着けることはアメリカ合衆国憲法が保障する個人の自由を放棄することだと考える人たちもいる。さらに、マスクの着用に積極的な人たちに民主党支持者が多いことを踏まえると、マスクの着用は民主党的な価値観に対する支持を意味するとも言えるかもしれない。

8. おわりに —— 個人の自由と他者への配慮

新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用をめぐる、アメリカ合衆国では活発な議論が展開されてきた。特に、政府によるマスク着用の義務づけは、激しい反発を呼んだ。マスク着用に対するアメリカ人たちの意見に耳を傾けていくと、二つのことが再確認される。一つは、科学や主流メディアに対して不信感を抱くアメリカ人たちが存在するということである。もう一つは、アメリカ人たちの多くは他人に何かを強制されることを嫌うということである。

科学や主流メディアに対する不信感がある程度の広がりを見せているというのは、悩ましい問題である。新型コロナウイルスがどういうウイルスなのか、それはどれぐらい危険なのか、どのように広まるのか、感染を防ぐためにはどうすればいいのかなどについて、科学者たちは探究を続けている。その探求の成果は、主流メディアをとおして人びとに伝えられる。こうして、アメリカ人たちは自分たちが置かれている状況を理解し、何を為すべきかを考えることができる。しかし、科学と主流メディアを信じないということになると、何を為すべきかを議論する以前に、現状についての理解を共有することができなくなる。もちろん、科学者たちも間違えることはあるし、主流メディアにも偏りはある。科学や主流メディアに対して健全な懐疑心を抱くことは大切だろう。しかし、それが事実の把握を妨げるまでに至ってしまっただけでは意味がない。これは教育制度やメディア環境の変化などとも関わる根深い問題だと言える。

他人に何かを強制されることを嫌うという傾向は、ある意味において、自由を重んじるアメリカ人たちの性質をよく表している。マスク反対派の多くは、マスクを着けることはいいことかもしれないが、それをいいことだと判断するのは各個人であるべきだし、それを実践するかどうかを決めるのも各個人であるべきだと考えている。個人の自由に至上の価値を置く人たちにとっては、他人が彼らの為になることを考え、それを彼らに強制するのは、それが実際に彼らに利益をもたらすと

しても、余計なお世話である。それを強制する主体が政府である場合、彼らの反発は特に強くなる (Brennan, van der Vossen, & Schmidt, 2018; Kymlicka, 2002)。

自由はアメリカ合衆国憲法によって保障された基本的な権利であり、アメリカを特徴づける理念である。その重要性については、広く認識されている。その一方で、自由を守るためにマスクの着用を拒むという主張には、どれだけの説得力があるだろうか。新型コロナウイルス感染症対策としてマスクを着用することが推奨あるいは強制された背景には、マスクを着けることで周囲の人たちを感染させる確率を下げるができるという科学的知見があった。つまり、マスクを着けるか着けないかという選択には、自分の健康だけでなく、周囲の人たちの健康が関わっている。

自由についての考え方は多様だが、一般的に言って、個人の自由は他人に危害を及ぼさない限りにおいて尊重されることが多い (加藤, 1997; ミル, 1859/2006; Kymlicka, 2002)。これを踏まえたとき、周囲の人たちの健康に危害を及ぼすかもしれない行為を個人の自由の名のもとに擁護することはできるだろうか。マスクを着けない自由を要求するという事は、周囲の人たちが自分の身を守る自由を侵害するという事にならないだろうか。このように考えると、個人の自由を重視する人たちであっても、あるいは個人の自由を重視する人たちだからこそ、マスクを着けるべきであるとも言えるように思われる。ただし、それは彼らが新型コロナウイルスの危険性やマスクの感染防止効果を事実として受け入れることを前提としている。この点において、個人の自由をめぐる問題は、科学と主流メディアへの信頼の問題につながる。

新型コロナウイルス感染症のようにアメリカ社会全体に影響を与える出来事が発生したとき、公共の安全を守るために、すべてのアメリカ人たちが同じ行動をとるべき状況が生じるかもしれない。マスクを着けるという行為は、そのような行動の一つの例だろう。新型コロナウイルスの感染拡大を止めるため、アメリカ人たちの多くは、公的な場においてマスクを着けるという新しい習慣を受け入れた。彼らの中には、新型コロナウイルス感染症に脅威を感じ、マスクが自分の身を守ってくれると信じて、これを着け始めた人たちもいる。その一方で、自分としては新型コロナウイルス感染症にそれほどの脅威は感じていないけれども、これに脅威を感じている人たちを助け、励ますことになるのなら、試してみる価値はありそうだと考え、そうした人たちもいる (Stewart, 2020, August 7)。彼らは周囲の人たちを気遣う気持ちから、自分たちの意思でマスクを着けることを選んだ。このようなアメリカ人たちが増えていけば、個人の自由を求める声と他者への配慮を促す声は調和していくかもしれない。

引用文献

- 加藤尚武 (1997) 『現代倫理学入門』 東京：講談社学術文庫
- 前嶋和弘, 山脇岳志, 津山恵子 (編著) (2019) 『現代アメリカ政治とメディア』 東京：東洋経済新報社
- ミル, ジョン・ステュアート (山岡洋一訳) (1859/2006) 『自由論』 東京：光文社古典新訳文庫
- Abad-Santos, A. (2020, July 9). The appeal and futility of mask meltdown videos. *VOX*.
<https://www.vox.com/the-goods/21318663/face-mask-karen-meltdowns-videos-trader-joes>
- Abad-Santos, A. (2020, August 10). Performative masculinity is making American men sick. *VOX*.
<https://www.vox.com/the-goods/21356150/american-men-wont-wear-masks-covid-19>
- Anti-Maskers throw tantrums nationwide. (2020, June 30). *Now This News*.
https://www.youtube.com/watch?v=53sE_CGJe8
- Asmelash, L. (2020, March 2). The surgeon general wants Americans to stop buying face masks. *CNN*.

- <https://edition.cnn.com/2020/02/29/health/face-masks-coronavirus-surgeon-general-trnd/index.html>
- Bosman, J. (2020, July 1). Amid virus surge, Republicans abruptly urge masks despite Trump's resistance. *The New York Times*.
- <https://www.nytimes.com/2020/07/01/us/coronavirus-masks.html>
- Bradner, E. (2020, May 27). Biden blasts Trump for mocking face masks. *CNN*.
- <https://edition.cnn.com/2020/05/26/politics/joe-biden-cnn-interview-trump-face-masks/index.html>
- Brennan, J., van der Vossen, B., & Schmidt, D. (eds), (2018). *The Routledge handbook of libertarianism*. New York, NY: Routledge.
- Breuninger, K. (2020, July 20). Trump says face masks are 'patriotic' after months of largely resisting wearing one. *CNBC*.
- <https://www.cnb.com/2020/07/20/trump-says-coronavirus-masks-are-patriotic-after-months-of-largely-resisting-wearing-one.html>
- Capraro, V., & Barcelo, H. (2020). The effect of messaging and gender on intentions to wear a face covering to slow down COVID-19 transmission. *PsyArXiv*.
- <https://psyarxiv.com/tg7vz/>
- Carlisle, M. (2020, May 26). Trump goes without mask for public tour of Michigan factory, says he 'didn't want to give the press the pleasure' of seeing him wearing one. *Time*.
- <https://time.com/5840833/trump-michigan-ford-plant-tour-mask/>
- Choi, M. (2020, July 14). Trump, in full reversal, urges Americans to wear masks. *Politico*.
- <https://www.politico.com/news/2020/07/14/trump-urges-americans-to-wear-masks-361836>
- Cohen, M. (2020, July 22). Bipartisan majority supports statewide mask mandates, poll finds. *Politico*.
- <https://www.politico.com/news/2020/07/22/voters-support-mask-mandates-376132>
- Dwyer, C., & Aubrey, A. (2020, April 3). CDC now recommends Americans consider wearing cloth face coverings in public. *NPR*.
- <https://www.npr.org/sections/coronavirus-live-updates/2020/04/03/826219824/president-trump-says-cdc-now-recommends-americans-wear-cloth-masks-in-public>
- Friedman, U. (2020, April 2). Face masks are in. *The Atlantic*.
- <https://www.theatlantic.com/politics/archive/2020/04/america-asia-face-mask-coronavirus/609283/>
- Hellmann, J. (2020, June 18). Mask-wearing becomes political even as some governors ease resistance. *The Hill*.
- <https://thehill.com/policy/healthcare/503456-mask-wearing-becomes-political-even-as-some-governors-ease-resistance>
- Hofstadter, R. (1963). *Anti-intellectualism in American life*. New York: Knopf.
- Howard, J. (2020, June 5). WHO calls on nations to encourage the public to wear fabric face masks where coronavirus is spreading. *CNN*.
- <https://edition.cnn.com/2020/06/05/health/face-mask-coronavirus-who-recommendations-bn/index.html>
- Igelnik, R. (2020, June 23). Most Americans say they regularly wore a mask in stores in the past month; fewer see others doing it. Pew Research Center.
- <https://www.pewresearch.org/fact-tank/2020/06/23/most-americans-say-they-regularly-wore-a-mask-in-stores-in-the-past-month-fewer-see-others-doing-it/>
- Jacoby, S. (2018). *The age of American unreason in a culture of lies*. New York: Vintage Books.
- Kymlicka, W. (2002). *Contemporary political philosophy: An introduction (2nd ed.)*. New York: Oxford University Press.
- Lizza, R., & Lippman, D. (2020, May 1). Wearing a mask is for smug liberals. Refusing to is for reckless Republicans. *Politico*.
- <https://www.politico.com/news/2020/05/01/masks-politics-coronavirus-227765>

- Mann, B. (2020, July 8). More states require masks in public as COVID-19 spreads, but enforcement lags. *NPR*.
<https://www.npr.org/2020/07/08/888499285/more-states-require-masks-in-public-as-covid-19-spreads-but-enforcement-lags>
- Masks Protect You & Me. (2021, January 7). CDC.
<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/prevent-getting-sick/masks-protect-you-and-me.html>
- Mitropoulos, A. (2020, July 18). 28 states, Washington D.C., and Puerto Rico have issued mask mandates to prevent spread of COVID-19. *ABC News*.
<https://abcnews.go.com/US/28-states-washington-dc-puerto-rico-issued-mask/story?id=71842266>
- Moreno, J. E. (2020, May 22). Trump fires back at Michigan AG after she calls him 'petulant child.' *The Hill*.
<https://thehill.com/homenews/administration/499108-trump-fires-back-at-michigan-ag-after-she-calls-him-petulant-child>
- Remarks by President Trump, Vice President Pence, and members of the Coronavirus Task Force in press briefing. (2020, April 3). The White House.
<https://trumpwhitehouse.archives.gov/briefings-statements/remarks-president-trump-vice-president-pence-members-coronavirus-task-force-press-briefing-18/>
- Republicans, Democrats move even further apart in coronavirus concerns. (2020, June 25). Pew Research Center.
- Reston, M. (2020, July 12). Trump gives in to the mask but takes new risks with schools. *CNN*.
<https://edition.cnn.com/2020/07/12/politics/trump-mask-coronavirus-schools-reopening/index.html>
- Romo, V. (2020, July 16). Georgia Gov. Brian Kemp sues Atlanta Mayor Keisha Lance Bottoms over face mask order. *NPR*.
<https://www.npr.org/sections/coronavirus-live-updates/2020/07/16/892109883/georgia-gov-brian-kemp-sues-atlanta-mayor-keisha-lance-bottoms-over-face-mask-or>
- Samuels, B. (2020, May 26). Trump calls it 'unusual' that Biden wore mask to Memorial Day event. *The Hill*.
<https://thehill.com/homenews/administration/499621-trump-calls-it-unusual-that-biden-wore-mask-to-memorial-day-event>
- Sanchez, G. R., & Vargas, E. D. (2020, May 15). 73% of Democrats are wearing masks to fight coronavirus. Only 59% of Republicans are. *The Washington Post*.
<https://www.washingtonpost.com/politics/2020/05/15/73-democrats-are-wearing-masks-fight-coronavirus-only-59-republicans-are/>
- Smalls II, C. I. (2020, June 26). 'You should be in a psych ward.' Anti-maskers get heated at Palm Beach commission meeting. *Miami Herald*.
<https://www.miamiherald.com/news/coronavirus/article243818302.html>
- Stanley-Becker, I. (2020, May 13). Mask or no mask? Face coverings become tool in partisan combat. *The Washington Post*.
https://www.washingtonpost.com/politics/in-virus-response-riven-by-politics-masks-are-latest-roschach-test/2020/05/12/698477d4-93e6-11ea-91d7-cf4423d47683_story.html
- Stewart, E. (2020, August 7). Anti-maskers explain themselves. *VOX*.
<https://www.vox.com/the-goods/2020/8/7/21357400/anti-mask-protest-rallies-donald-trump-covid-19>
- Stracqualursi, V. (2020, May 27). Fauci says he wears a mask to be a symbol of what 'you should be doing.' *CNN*.
<https://edition.cnn.com/2020/05/27/politics/fauci-coronavirus-wear-masks-cnntv/index.html>
- Stracqualursi, V., & LeBlanc, P. (2020, July 16). Georgia governor sues Atlanta mayor over city's mask mandate. *CNN*.
<https://edition.cnn.com/2020/07/16/politics/georgia-kemp-mask-mandate/index.html>
- Thomson-DeVeaux, A. (2020, July 23). Republicans and Democrats see COVID-19 very differently. *FiveThirtyEight*.
<https://fivethirtyeight.com/features/republicans-and-democrats-see-covid-19-very-differently-is-that-making-people->

sick/

Transcript: Vice President Mike Pence on “Face the Nation.” (2020, June 28). *CBS*.

<https://www.cbsnews.com/news/transcript-vice-president-mike-pence-on-face-the-nation-june-28-2020/>

Uscinski, J. E., & Parent, J. M. (2014). *American conspiracy theories*. New York: Oxford University Press.

Yan, H. (2020, June 29). Want to prevent another shutdown, save 33,000 lives and protect yourself? Wear a face mask, doctors say. *CNN*.

<https://edition.cnn.com/2020/06/25/health/face-mask-guidance-covid-19/index.html>